

有明抄

ひと言の願いなら何でもかなえてくれる、と伝えられる「一言主神社」の総本社が奈良県御所市にある。この神社にちなんで、はがきに「一言の願い」をつづる「はがきの名文コンクール」が開かれている。ことしの受賞作に、東京で暮らす佐賀市出身の大学生からの一編があった◆佐賀を離れて半年。僕は、大学生なのだろうか。大学には一度も行ったことがない。大学への行き方も分からないし、これからの僕自身の生き方も分からない。この春、大学に進んだ藤井祐聖さん(19)が上京したのは、コロナの「第1波」が収まった初夏のころ。夢に見た大学生活はしかし、講義はすべてオンライン。寮の部屋で一人、パソコンと向きあうだけの毎日だった◆時間をもてあまし、寮で家庭菜園を始めた。幼いころから農家の祖父母を手伝い心得があった。野菜と自分の成長スピードを勝負した。大敗北である。◆藤井さん同様、対面で学ぶことができない学生は多い。通ってもいない大学から学費だけはしっかりと請求される」と理不尽な思いもある。社会に出るために必要な成長ができていくか、いちばん不安なのは本人だろう◆将来は佐賀に戻って、農家の担い手もいない地域を何とかしたい」と藤井さん。神さま、どうか願いがかないますように。(桑)

2020.12.7

